

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174100487		
法人名	株式会社 育成		
事業所名	グループホーム育成会 長生の望・灯・楽 (灯ユニット)		
所在地	釧路市大楽毛南4丁目6番8号		
自己評価作成日	平成23年3月1日	評価結果市町村受理日	平成23年5月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigocho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174100487&amp;SCD=370">http://system.kaigocho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174100487&amp;SCD=370</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成22年3月26日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にも謳っている通り、入居者にとつての安心できる環境を提供し、その人らしいあたり前の生活が送れるように努めてまいります。また、地域の方々との交流を大切にして、地域の中で孤立した場所にならないように、より地域と密着したグループホームを目指していきたいと思ます。今後も、町内会をはじめ様々な機関と連携を図り、入居者の尊厳や権利を損なわない環境作りに努めてまいります。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は国道38号線を海沿いに入った静かな場所にある。3階建ての2階、3階を各ユニットに使用している。各ユニットの共有部分は明るく、掃除も行き届き清潔で、利用者がゆったりと寛げる場となっている。加湿器を設置し湿度調整に気をつけ、利用者は一階で機能訓練やカラオケをして楽しみの場となっている。職員は町内会行事に利用者と一緒に参加し、地域住民も事業所行事に多数参加している。又利用者家族の参加もあり、それぞれに馴染みの関係が出来ていて利用者同士も仲が良く、居室に籠るのではなく居間にいる時間が多く、お互いに助け合う姿も見られる。職員は利用者のケアの統一を図り、有りのままを受け入れ、その人らしい生活が送れるように支援している。利用者を第一とし家族の絆を大切にし利用者の尊厳を守りながら、日々穏やかに暮らせるように支援している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームで掲げる基本理念、運営理念を毎朝の申し送りで唱和し、確認するとともに職員一人ひとりが理解して理念の共有を図り実践しております。	開設時より「地域住民との交流の下で」を掲げて施設長、管理者、職員は理念を共有し、日々ケアサービスの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事には利用者とともに参加している。周年祭や屋外パーティ、盆踊り、運動会などを一緒に楽しみ、顔なじみとなるように努力している。また、ホームの駐車場を災害の際の避難場所として提供しております。	職員は地域の行事に利用者と一緒に参加し、事業所行事には多数の地域住民と利用者家族も参加している。また災害時の際の避難場所として事業所の駐車場を提供し、利用者と住民の交流は深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会を通じて地域のお年寄りやホームの利用者を見守ることを推進し実践している。SOSネットワークの重要性を運営推進会議などで説明しながら意見交換を行っております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開催し、議事録を作成している。会議ではホームの状況を説明しながら積極的な意見交換を行い質の向上に活かしております。	運営推進会議は定期的に2ヶ月に1度開催し事業所と利用者の実情を説明し、災害対策についても話し合い、意見等をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム全体で市の関係部門と情報交換を行うとともにホームへの理解や支援の要請に取り組んでおります。	施設長が市の担当者と直接面談したり、電話で話し合う等連絡を取り合い情報交換や意見交換を行いながら、連携し協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホームの経営者、施設長、各フロアのリーダーなど職員を統括する立場の者が身体拘束、行動制限を行わない宣言をし、日常の取組みの中で1つひとつの事例と向き合いながら実践しております。	運営者ははじめ施設長、フロアリーダー等が自ら身体拘束を行わない事を宣言し職員全体で取り組み、理解し身体拘束の研修にも参加している。玄関施錠は防犯上夜間のみとしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は「だけど」「でも」といった”言い訳ケア”をやめて他の者に責任転換することなくケアに取り組むことにより、利用者の尊厳と主体性を尊重し虐待を正当化することなく防止に努めております。		

グループホーム育成会(灯ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々のきめ細かい関わりを通じて一人ひとりの状態や行動の特徴を把握し、その人の生活のリズムや何を注意しておくべきかを予測する事により、日常生活の自立支援を心がけている。成年後見制度については、職員に徹底できていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前に本人、又は家族等に見学に来ていただいています。契約に関しては、許せる限りの時間をかけ説明し納得した上で、署名捺印して頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱、アンケート用紙を置いています。苦情等の窓口を設けて対応しています。また、家族の来訪時や電話、手紙などで利用者の健康状態を報告し、ホームに対する理解や支援の要請に取り組んでおります。	意見箱を設置している。家族の来訪時や電話、遠方の家族には手紙等で利用者の健康状態等を報告するときに、意見や要望を聞いている。家族ケアを大切にし、家族の相談にも対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に施設長との面談を行うことで、スタッフの意見や提案に積極的に耳を傾け運営に反映させています。	会議の中で積極的に意見や要望を聞き、3～4ヶ月に1度は面接を行い職員の意見を聞いて運営に反映させている。又、ケアについては利用者第一に考え提案があれば直ぐに行動に移すようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験や実績に応じてキャリアパスを設けており、向上心をもって働けるように努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、経験や必要に応じて随時の研修を受講している。また、そのレポートを提出させ、代表者がコメントを送っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症高齢者グループホーム協会等の研修会に参加し、交流を持つことにより、情報を提供し合いながらサービスの質の向上を目指しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談の際、御家族や関わりのある支援事業所等より情報提供して頂き、傾聴、受容の姿勢で取り組むことにより、利用者が困っていること、不安なこと、求めていることを安心して相談できる体制に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用相談の際、御家族や関わりのある支援事業所等より情報提供して頂き、御家族の思いや意向を傾聴している。利用に際して十分な説明を行う事で安心してご利用頂ける様、心がけております。また、御家族が気軽に意見や相談が出来るような雰囲気作りに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談や面談の際、必要としている支援の見極めを行います。求められている支援に対し、職員全員で協議を行いながら、初期の介護支援計画を立てます。その他のサービスについても御家族と相談し必要としているサービス利用を含めた支援に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活動作の中で、個々の能力を活かした役割分担を行い、料理や掃除の際のちょっとした工夫を利用者の方から教えて頂く事もあります。季節に合った物作りを楽しみ、完成の喜びをともに分かち合うなど、互いに学び支え合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的な連絡や面会時、月に1回発行の通信物により、個々の様子を報告し御家族と連携を図りながら共に支援しております。また、行事等がある際には案内をして利用者との時間を共有できるよう働きかけています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室やお店、以前住んでいた場所へ行ったり、親戚や友人、兄弟との電話でのやりとりや来訪を受けています。また、趣味等も継続できるように支援しております。	かかりつけの病院で知人と話し合ったり、馴染みの美容室に出かけている。親戚や友人、兄弟との電話の支援、また事業所に来訪したとき、ゆっくりお話が出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介役となり、利用者同士の交流や関係作りの支援を行っております。最近では、利用者同士がお互いを気遣い声を掛け合ったり、時には助け合い支え合いながら生活を共にしています。また、利用者の訴えを代弁して職員に知らせて下さる事もあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院によりサービスの利用が終了したり、他の施設に移られた際にも、必要とされる対応や支援をさせていただいております。また、退居後も御家族より経過の連絡などがある方もおります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや意向の把握に努め、職員全員と情報を共有しながら支援に努めています。把握が困難な場合は、本人の動作や表情の中から感じ取る努力を行い、御家族や職員が話し合いをし検討しております。	日常の関わりから、利用者1人ひとりの思いを把握し、把握の困難な場合は表情、仕草などからくみ取り、家族と相談し本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族等より情報を頂き、また直接御本人より生活歴をお聞きしている。居室には馴染みの物や家具などを持ち込むなどしながら、これまでの暮らしの把握に努め、よりよい環境作りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりの身体機能と残存能力の把握に努め、日々の生活の中での体調変化や動作、表情等の観察を行い、個々の介護記録に記載、職員間での情報共有を行いながら、その人なりの生活が維持できるように努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族、御本人の思いや意向を反映した利用者本位の介護計画となるように職員全員と話し合いながら、介護支援専門員が介護計画を作成しています。	日常的にモニタリングが行われ、利用者、家族の意向を踏まえた介護計画を作り、介護目標と連動した日誌やケース記録となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や体調の変化、介護計画の中で、課題内容と思われる動作や言動、対応等を介護記録に記載し職員間での情報共有にも活用しています。記録内容を参考に職員全員で検討しながら、支援の実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族と定期的な連絡及び連携を図りながら、外出や病院受診等の支援を行っております。ご本人の意向や要望によっては、買物や近郊へのドライブ、公共施設への見学等も実地しています。その人なりの生活が継続して頂ける様に柔軟な姿勢で支援に取り組んでおります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会とのかかわりを大事にしております。町内会の行事に参加し顔なじみの関係を築く。運営推進会議を通じて、災害時や緊急時等の体制作りにも働きかけています。		

グループホーム育成会(灯ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の利用者の御家族と連携を図りながら、かかりつけの病院へ定期受診及び緊急時の対応を行っております。御家族が受診の同行をする際には、経過状況報告書と健康管理票を御家族に手渡し、適切な医療を受けられるよう支援しています。	家族と連携を図りながらかかりつけ医の定期受診や緊急時の対応をしている。家族が受診対応する時には日常生活状況、健康管理等の情報を提供している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に来設されている訪問看護師には、日常生活の状況及び治療経過の報告及び相談をし助言を頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された際には、情報をすみやかに提供しております。長期にわたる場合には、定期的に伺い、療養状況や方針について御家族と共に確認しております。また、日頃の関係作りでは、定期的に訪問を行い、新規入居等の関わりもお願いしております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医や訪問看護師との連携及びご家族の協力が必要であり、ホームでの指針については契約時に十分に説明し同意を得ている。過去にターミナルを実施したことはないが、必要時に対応できるような体制作りをしております。	事業所の指針については契約時に家族に説明し同意を得ているが、必要に応じて対応出来るような体制作りに取り組んでいる。	訪問看護師が月2回定期的に健康管理に来ているが、重度化や終末期には医療関係者と家族の連携が必要であり、早い段階から本人、家族と話し合いを進め、方針を共有し関係者と共にチームで支援に取り組むことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、対処方法を確認している。AEDの講習もしているが年に複数回実施できるよう検討している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時における避難誘導訓練はしており、近隣の方の協力体制は、運営推進会議を通してお願いしている。津波に関しては、ホームが地域の避難施設よりも高い建物である為、逆に地域住民の方の受け入れも可能です。そのことについては町内会に伝えております。	避難訓練は年2回定期的に行っている。地域住民に協力をお願いしながら、避難場所として地域の避難施設よりも高い事業所の建物に、受け入れ可能を伝えており、備蓄も備えてある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、自尊心を傷つけないように優しい雰囲気でするように努めております。	利用者個々の特性を知り、普段の対応でも、利用者の人格を尊重し、トイレ誘導時には特に誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で、思いや希望を伝えられるような信頼関係作りを努めております。		

グループホーム育成会(灯ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活習慣を把握し、ご本人の意向を尊重して、その人らしい生活を過ごして頂けるよう、思いや希望を発する事ができる環境作りに努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの色や服装を把握し、その人らしさが保てるように支援に努めております。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体機能の低下及び認知症が中・重度の方が多い為、直接食事作りや掃除を行う事は難しいですが、食材の下処理、食器の下膳、食器拭き等を手伝って下さったり、掃除の際に掃除がしやすいように物を移動させて下さったり、ご本人なりに出来ることを実施しております。	利用者の持てる力で職員と一緒に食事の手伝いをしている。利用者の好みや食べたい物を聞きながら献立を作り、栄養バランスに気を付けて、盛付けや配色にも工夫が見られる。身体状況によって、刻み食やお粥食などにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、水分や食事摂取量のチェックを実施、塩分や水分制限の方もいる為、個々の健康に配慮しながら全体の味付けはうす味とし、食材の風味を活かした調理の工夫で、栄養バランスが保てるように支援しております。水分摂取についても、水分不足の方には好みの飲物を用意したり、必要に応じて介助を行ったり、小分けにして回数を増やすなど、必要な水量が確保できるよう支援しています。月初めに体重測定を実施して比較、参考にしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施しております。ご自身で出来る方はご自身で、介助が必要な方には義歯、口腔洗浄等の介助を行っております。個々の口腔状態を観察しながら、ご本人の訴えや治療の必要な際には、往診や受診対応も行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子使用にて、1人ではトイレ移動や排泄行為が出来ない方、認知症の進行により排泄を訴える事が出来ない方もいますが、排泄チェック表を毎日つけることで、本人の排泄間隔を周知し、トイレ誘導を行い失禁を減らし、気持ちよくトイレで排泄できるよう努めております。	排泄チェック表で個々に把握し、誘導や声かけでトイレ排泄の自立を支援している。自立することで生活にメリハリが出てきて、自分の役割を選択したり、買い物でも自分の洋服を選ぶ事が出来るようになった。	

グループホーム育成会(灯ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、排泄チェックを実施。便秘気味の方の水分、食事量のチェックを行い過度にならない程度の好みの飲食物を提供し、献立や調理の工夫にも努めています。また、春先から秋頃までは入居者の体調に合わせ、外気浴や散歩等の運動を実施。冬期間は室内での歩行、ゲーム等の運動に参加していただき、身体を動かす働きかけに取り組んでいます。自立での排便困難や便秘症については、かかりつけの医師に相談し投薬の処方を受けています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々に気持ち良く入浴して頂く為、本人の入浴の意向と体調を確認しながら、週2~3回程度の入浴を支援しています。入浴を苦手とし拒否される方に対しても、入浴されるように言葉を選び、拒否の原因を取り除き促します。また、日を改めて入浴を勧める事で、安楽な入浴ができるよう支援しています。足にむくみがある方には、状況に応じて足浴を実施しています。入浴時は入浴剤など入れて楽しんで頂ける様、支援しております。	毎日入浴出来るようにしている。検診日前日の入浴を勧め拒否の場合にはタイミングを見て入浴を促がしている。保湿性のある入浴剤を使用して自分で行うことは行ってもらいながら楽しんで、入浴が出来るように支援している。シャワー浴や足浴、清拭は随時行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子や足のむくみのある方など、状況に応じてソファに移動介助し、足を伸ばして頂いたり、高くすることで気持ちよく休息していただけるよう支援しています。時には、回想法を用いた団欒の時間を持つ事で、精神面の安定を図り、安心して休息、睡眠が取れるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬が一目でわかるように、個々のファイルに処方箋を添付しています。また、個人の薬箱を作り日々の内服薬に関しては、朝・昼・夜・食前・就寝前など必要に小分けしたケースを置き、服用の都度、氏名の確認や服用後の確認等を徹底して行っています。薬の変更があった場合には、診療報告書並びに日報に記載。いずれも全職員が確認後にサインをするようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や趣味を活かし、カラオケや物作りを実施。季節に応じて近郊へのドライブに出かけて、お弁当やソフトクリームなどを食べたり、近郊の方との交流を図る事で、集団の中であっても閉鎖的な生活とならぬよう、張り合いや喜びを持てる支援に努めております。		



グループホーム育成会(灯ユニット)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームでは定期的に入居者に行きたい所を聞きながら、四季のドライブ、外食、買物に出かけています。ご家族にも協力していただき、外泊して温泉へ行かれる方もおります。	散歩や買い物は利用者に選ぶ場を作りながら行い、ドライブや外食、温泉で一泊するなど、行きたい所に家族と協力しながら外出支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望があれば、小額をご自身で管理していただく事もあります。また、外出時の買物の際は、自らお金の管理をしていただく事もあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時や定期的にご家族と連絡が取れるよう、職員が取り次いだり手紙が届いた場合は、返信の代筆を頼まれる事もあります。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やユニットの出入口、リビング等には季節ごとのタペストリーや花、小物などを飾り、季節感を取り入れています。	居間は明るくテーブルや椅子、ソファ等を設置し利用者はそれぞれの場所で寛いでいる。壁には利用者の作品や写真を飾り、季節を感じさせるように、工夫し、又、東北で災害に合われた方にメッセージ「ガンバレ東北」と利用者の方が書き、掲げてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間であるリビングには、テーブル席とソファが2か所設置しており、それぞれのお好きな所で自由に過ごしていただけるように工夫しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、新品の物を改めて購入するのではなく、極力馴染みのある物、使い慣れた物をお持ちくださるようお話しております。限られた居室のスペースである為、配置等については、十分に考慮して心地よく生活していただけるよう工夫しております。	居室には洗面所とクローゼットが設置されている。使い慣れた椅子、タンス、テレビ、家族の写真、馴染みの小物類などが持ち込まれている。配置も考慮し、心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	会話や動作の中で、「できること」や「できないこと」を職員が把握して、見守りや声掛け、誘導を行うなどしながら、自立した生活を過ごせるように工夫しております。		